

石碑は先人からの メッセージ

自然災害碑の保全と活用の取り組み



皆さんは地域や道路脇で見かける石碑をじっくり見たことがありますか。供養塔であったり、開墾記念など地域の重要な土木工事に関わるものであったり、石碑の内容は様々です。

そのなかに、過去に地域で起きた自然災害について伝える石碑もあります。土佐清水市は過去に何度も大きな災害に見舞われてきました。たとえば、今後30年間に70～80%の確率で再び起きると言われている南海トラフ地震は、過去に起きた際にも津波などによって人々に大きな被害をもたらしました。江戸時代後期の南海トラフ地震である安政地震に関する石碑は市内の各地に残されており、被害の様子や後世への教訓が詳しく記されています。また、風水害も多く、台風などで大雨が降ると河川が氾濫し、流域の集落で多くの被害が出ました。なかでも大正九年の水害は被害が甚大で、下ノ加江川や宗呂川、三崎川の近くに残る石碑には、被災の様子と復興に至る道のりが記されています。

このように、自然災害に関する石碑やモニュメントは、災害を経験した地域の先人から現在この地で暮らす私たちにあてたメッセージです。そのメッセージを埋もれないように掘り起こし、守り、未来へ伝えていくとともに、いつかくる災害に備えて私たちの生活の中に活かしていくことが大切です。ところが、歴史資料としても防災の教訓としても重要なこれらの石碑は、最近まで十分に周知・活用されているとは言えない状況にありました。なかには地元の人からさえ忘れられてしまったものもありました。

そこで土佐清水ジオパーク推進協議会では 2019 年から土佐清水市生涯学習課市史編さん室、危機管理課、土佐清水市郷土史同好会、土佐清水自然史研究会と連携して、市内に残る自然災害を記録した碑の調査を行いました。また、石碑の教訓を未来に伝えるため、昨年9月には下川口小学校や三崎小学校で石碑を使った地域学習を行いました。11月には大正時代以前の南海地震や風水害について記録した石碑10基が「近世近代自然災害碑群」として市指定有形文化財に登録される運びとなりました。

さて、石碑の活用も始まり、文化財登録も行われ、一安心・・・かと思いきや、なんと新しい石碑の情報が入ってきました。伊佐漁港に台風被害に関する石碑があるというのです。早速行ってみると、確かにありました。平成16年台風23号による高波被害についての石碑です。漁具や漁船が流されたこと、死亡者が一人出

たことなどが記されています。石碑の下部には波高も記され、5～10mの位置まで波がきたことがわかります。

地域には人知れず埋もれている自然災害碑がまだたくさん残されていそうです。地域の石碑についてご存知の方がいらっしゃいましたらぜひ情報をお寄せください。

(ジオパーク専門員 森口夏季)

先人が残した大切なメッセージを未来に伝えるためにも、地域にある石碑の情報をお寄せください！



伊佐漁港の高波被害
についての石碑

エリア内の自然災害碑

- 地震・津波
- 水害
- 高波



土佐清水市内の自然災害碑の詳細な情報はジオパーク構想WEBページにも掲載しています！



自然災害碑を活用した防災学習の取り組み

学校教育での活用

小学校での総合的な学習の時間で、地域にある自然災害碑について学習しています。



3Dプリンタを活用したワークショップ

昨年11月にはJAMSTEC高知コア研究所主催で、3Dモデルを使った自然災害碑についてのワークショップを行いました。

